

アスリートの躍動を記録するスポーツ・グラフィックス

# Extreme PRESS

〔エクストリームプレス〕 by AJPS

Vol. 9

2013 SUMMER

特集 TRIATHLON

「限界、その先へ」



FREE

ご自由に  
お持ちください

アスリートの躍動を記録するスポーツ・グラフィックス

# Extreme PRESS

Vol.9

2013 SUMMER



[Cover Photo]

井上六郎 写真 Photo by Rokuro Inoue

近づかないと撮れない絵柄がある。鼓さなければ撮れない絵柄がある。たとえ数十メートル先の沖だろうが、たとえ数十センチの波高だろうが、旅路を行く者にしかわからない視線の先がある。集団から残され、孤独に両手両足を回らす男と、目があい、息があった。

2012.5.20 ホノルルトライアスロン  
Panasonic DMC-GX1+水中ハウジング  
LUMIX G FISHEYE 8mm F3.5 1/160 F6.3  
ISO160 ホワイトバランス マニュアル  
サンディスク エクストリーム プロ SDカード 16GB

[www.ajps.jp](http://www.ajps.jp)

Publishing / AJPS (Association Japonaise de la Presse Sportive)

Publisher / Akito Mizutani

Producer / Yoshiyuki Osumi

Planning Director / Rimako Takeuchi · Takahito Mizutani

Editor in Chief / Masaomi Arakawa

Editor / Hideyuki Imai · Yoshiharu Hatanaka · Tsutomu Takasu

Noriko Hayakusa · Gen Matsueda

Design / Atelier[a:r] Rika Ito

Printing / Hankyu Co.,Ltd

特別協力：公益社団法人 日本トライアスロン連合 <http://www.jtu.or.jp/>

## CONTENTS

### 「限界、その先へ」

巻頭エッセイ Vol.9

### 「A WILL OF IRON —不屈の意志—」

泉 悟朗 文 Text by Goro Izumi

#### Moments

萩原利一 写真 Photo by Toshikazu Hagiwara

泉 悟朗 写真 Photo by Goro Izumi

田中伸弥 写真 Photo by Shinya Tanaka

水谷たかひと 写真 Photo by Takahito Mizutani

北村大樹 写真 Photo by Daiju Kitamura

高須 力 写真 Photo by Tsutomu Takasu

藤田孝夫 写真 Photo by Takao Fujita

#### Close Up

田山寛豪 Hirokatsu Tayama

[NTT東日本・NTT西日本／流通経済大学職員]

#### 「オレの背中を見て走れ！」

宮崎恵理 文 Text by Eri Miyazaki

近藤 篤 写真 Photo by Atsushi Kondo

#### Impression

#### 「溢れ出る喜怒哀楽をTIFFデータで記録する」

泉 悟朗 写真・文 Photo & Text by Goro Izumi

### 「A WILL OF IRON —不屈の意志—」

泉 悟朗

ワールドトライアスロンシリーズには、世界屈指のプロアスリートが集結する。そこでは、肉体と精神の限界を競うレースが繰り広げられる。限界の先に生まれる名勝負、描かれる人間のドラマにいつも胸が熱くなる。

トライアスロンに出場するアスリートは、ハードなトレーニングで身体を鍛える一方、酷使することで起こる故障や怪我によってタイトル争いから離脱、そのまま引退というケースも珍しくない。身体と心を磨き続けて、トップアスリートとして輝ける時間は意外に短いのかもしれない。

第一線への復帰が難しいと思われた怪我から、再び栄光の舞台を目指す者もいる。出口の見えない暗闇の中、孤独に耐え、自らのカムバックを信じてただひたすらハビリを続ける。そのすさまじい努力が表に見えることはない。

「もう一度トライアスロンがしたい。そのときには自分らしいレースを展開したい！」故障で現役を一時退いた女性アスリートの、無念と悲しみをじませて語った言葉が私の心に強く残っている。その後、彼女は不屈の精神と人知れぬ努力で不死鳥のように蘇った。そして、現在も世界トップクラスのライバルと闘い続けている。

挫折、努力、乗り越えてきた困難、再起に費やした時間、それら全てを内に秘め、アスリートは身体ひとつでスタートラインに立つ。レースが始まれば、苦しさに臨む勇気と、積み上げてきた想いを胸に、自分の限界を超えるとする。そして、決してあきらめることのない、その強い精神力が数々の名勝負を生んできた。

ランで迎えるゴールの瞬間、観客席は感動に沸き立ち、アスリートたちには惜しみない拍手が送られる。その拍手の先に、勝者と敗者の区別はない。



#### Moments

### 「限界、その先へ」

萩原利一 写真 Photo by Toshikazu Hagiwara

赤レンガ倉庫と手前の緑のコントラストがとてもキレイだと思い選んだ撮影場所。スピード感を出したかったのでスローシャッターにして流し撮りしてみた。後方に空間を持たせたことで選手が振り返った瞬間の臨場感を表現できた一枚である。

2011.9.19 トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会 Canon EOS-1D Mark IV EF300mm F2.8L IS USM 1/15 F20 ISO50 ホワイトバランス マニュアル サンディスク エクストリーム コンパクトフラッシュ カード 32GB

泉 信朗-写真 Photo by Goro Izumi  
水面から飛び出した山本良介選手。水は大きな抵抗となりアスリートに重くのしかかる。水といかに融合できるかで、勝負の明暗が分かれてしまう。南半球のまばゆいばかりの日差しが、アスリートをオレンジ色に染めた。

2012.4.13 ワールドトライアスロンシリーズシドニー大会  
Nikon D300S Ai AF-S Nikkor 300mm F4D IF-ED 1/1000  
F4.5 ISO200 ホワイトバランス オート  
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 32GB

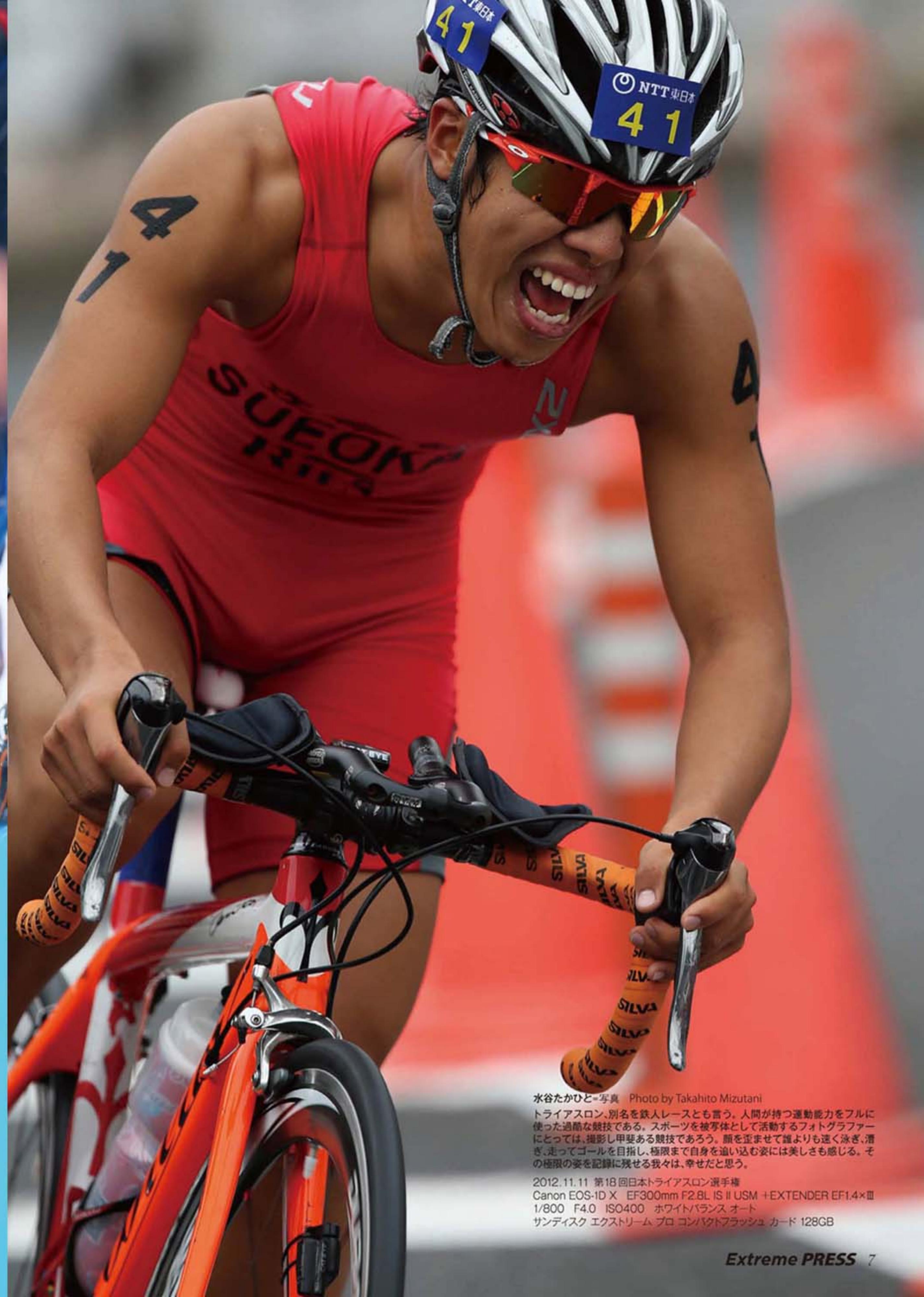




田中伸弥写真 Photo by Shinya Tanaka

トライアスロンはスイム、バイク、ラン全てで争う競技。しかし選手はそれぞれ得意とする種目がある。そんな中スイムで遅れをとった選手は、これから前に行く選手たちを次のバイクで追い上げるぞ、という気持ちが目に宿る。その瞬間を撮りたくてこの一枚を狙った。

2013.5.11 ワールドトライアスロンシリーズ横浜大会  
Canon EOS-1D X EF400mm F2.8L IS USM 1/1250 F7.1  
ISO1600 ホワイトバランス オート  
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 64GB



水谷たかひでの写真 Photo by Takahito Mizutani

トライアスロン。別名を鉄人レースとも言う。人間が持つ運動能力をフルに使った過酷な競技である。スポーツを被写体として活動するフォトグラファーにとっては、撮影し甲斐ある競技であろう。顔を歪ませて誰よりも速く泳ぎ、走ってゴールを目指し、極限まで自身を追い込む姿には美しさを感じる。その極限の姿を記録に残せる我々は、幸せだと思う。

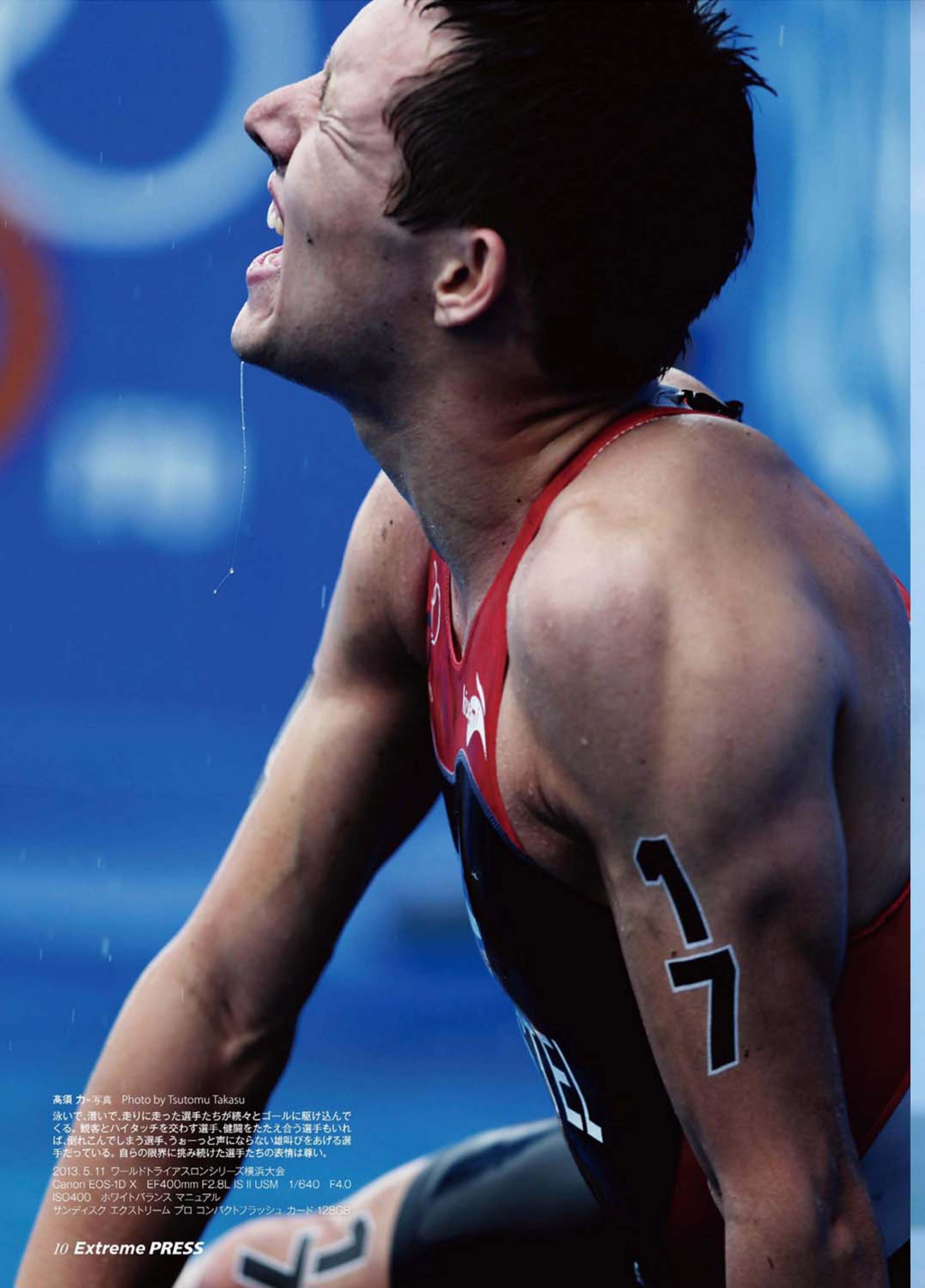
2012.11.11 第18回日本トライアスロン選手権  
Canon EOS-1D X EF300mm F2.8L IS II USM + EXTENDER EF1.4×III  
1/800 F4.0 ISO400 ホワイトバランス オート  
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 128GB



北村大樹 写真 Photo by Daiju Kitamura

舞台はイギリス王立公園ハイド・パーク。もっと選手に近づきたいとの思いで、熱狂する観客の大壇を攝影分野公園内を徘徊。やっと見つけたポイント下で警備員に怪しまれながら地面に寝そべり、頭上から選手の駆ける足が降ってくるほど距離で広角レンズを煽る。ロンドンは相変わらずの豪華空だ。

2012.8.7 ロンドンオリンピック  
Canon EOS-1D X EF8-15mm F4L フィッシュアイ USM 1/2500  
F8.0 ISO800 ホワイトバランス オート  
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 32GB



高須 力 写真 Photo by Tsutomu Takasu

泳いで、滑いで、走りに走った選手たちが続々とゴールに駆け込んでくる。観客とハイタッチを交わす選手、健闘をたたえ合う選手もいれば、倒れこんでしまう選手、うおーっと声にならない雄叫びをあげる選手たまっている。自らの限界に挑み続けた選手たちの表情は尊い。

2013.5.11 ワールドトライアスロンシリーズ横浜大会  
Canon EOS-1D X EF400mm F2.8L IS II USM 1/640 F4.0  
ISO400 ホワイトバランス マニュアル  
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 128GB

藤田孝夫 写真 Photo by Takao Fujita

消耗した体が、歎声と共に発達する。1位と2位、言い換えれば勝者と敗者であるはずなのに、彼女たちは抱擁しあう。太陽に晒され、水分を搾りとられ、それでも笑顔でフィニッシュする。きっとそれは、戦う相手が「タイム」でも「敵」でもなく、「自分」だからだ。

2011.9.19 トライアスロン世界選手権シリーズ横浜大会  
Nikon D3 AF-S NIKKOR 400mm F2.8G ED VR 1/1000 F5.6  
ISO200 ホワイトバランス オート  
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 16GB



# 「オレの背中を見て走れ！」

## 田山寛豪

[NTT東日本・NTT西日本／流通経済大学職員]

転機は、茨城県立大洗高校2年の夏。陸上部の監督から「駅伝の選手として一緒に走ってみないか」と声をかけられた。田山寛豪は、3歳から水泳を始め競泳一筋でやってきた。子どもの頃の夢は、当然、「競泳でオリンピックに出場すること」。しかし、「せいぜいが関東大会止まり。茨城県で優勝しても標準記録に届かずインターハイなどへの出場さえかなわなかった。同じスイミングクラブの仲間たちが活躍する姿を、後ろから覗んでいました」

駅伝で長距離を走れば心肺機能が上がり、競泳の力を押し上げてくれるかもしれない。そんな思いで走り始めたのだった。そして高校3年になると、陸上部の監督から新たな世界が提示された。

「せっかく、水泳と長距離走をやっているんだ。あとは自転車をやればトライアスロンの選手になれる。どうだ、やってみないか」。

1999年、夏。翌年のシドニー五輪からトライアスロンが正式競技となる。とうの昔に諦めていたはずのオリンピックへの道が、突然、自分の目の前に開けて見えた。

「流通経済大学に進学してからも駅伝部の寮に入れてもらって、駅伝の連中と同じメニューをこなしました。もちろん、その合間にプールで泳ぎ込み、ロードでバイクの練習もして。そうしたら、高校時代どんなに頑張っても上がらなかつた水泳のタイムがすごく上がった。ああ、ムダになってない。全部力になってるんだって、本当に思いました」

そうして、「04年のアテネ五輪に出場し13位という記録を残した。

「当時は、国際トライアスロン連合（ITU）が主催するワールドカップに出場するのも自費だった。オレはお金を払ってレースに出てる。金をもらってるプロには絶対に負けないぞ。そんな鼻息が、結果につながった」

'07年、ITUワールドカップ・エイラート大

アテネ、北京、ロンドンと3度のオリンピックに出場。日本トライアスロン選手権では通算7勝をマークしている。2連覇した選手は過去にいるが3勝以上挙げているのは、田山寛豪一人しかいない。32歳。日本のトライアスロンを牽引する田山は、荒波も向かい風も土砂降りも全てを受け止めて、泳ぎ、走ってきた。そして、これからも—。

会で日本人として初優勝。しかし、メダル獲得も見えた北京五輪では48位に沈んだ。「北京の時には、直前に所属していた実業団がなくなる、ということもありました。でも、その実業団にはとてもよくしてもらっていたし、そこから今の流通経済大の職員という職も得た。トライアスロンに対しては、そういう自分の環境は別にネガティブになってないんです。北京の時は、ただただあせりだけが暴走して、自分の器がそれについていってなかつた。スイムは5着で上がつたんですが、もう、そこでいっぱいいっぱいでした。今でもスイムは全力で泳ぎますが、どこかに余裕があって、次のバイクへのトランジションはこうして、コースは、天候は、ってちゃんとレースを頭の中で構築できる。それが北京の時にはできていなかつた」

48位だったからこそ、ゴールを走り抜けた直後に次のロンドンが見えた。

「自分にとっては、トライアスロンが生活、人生の全て。あらゆることをトライアスロンから学んできた。苦しい練習も、気象条件のわずかな変化やコースのコンディションも。蓄積されて、今の自分がある」

アキレス腱のひどい炎症に悩まされながらも、北京を狙う時以上のルーティーンを自分に課した。ロンドン五輪を決めるためには、ワールドトライアスロンシリーズで8位以内に入らなければならない。'12年、サンディエゴ大会で43位。ロンドンが遠くにかすんだ。

「でも、諦めなかつた。次のレースを最後のレースだと思ってとにかく全力を出し切ろう。それだけを考え、スペイン・マドリードの大会に臨んだんです」

結果は7位で出場権を獲得。そうして出場したロンドン五輪では20位に。3度の五輪の結果だけを見れば、さながらジェットコースターのようだが、それさえも田山は大切な経験として身に付いていると語る。

「著名人が著した本には、必ず『諦めなければチャンスは来る』と書かれている。片つ端から読みましたよ。でも、それを本当に実感したのは、このスペインのレースでした。諦めないということを自分の手で確かにつかみ取つた。トライアスロンでなければ、それを学べなかつたと思います」

2013年5月11日。そば降る雨の中、ITUワールドトライアスロンシリーズ横浜大会がスタートした。スイムからバイクへのトランジションで時間がかかりバイクで第2集団に。このミスがひびき最終結果は22位。

「すっごい悔しいです。久しぶりにファーストパックの後ろ姿を見ながらバイク、必死で漕ぎましたよ。でも、それがあるから次に生かせる。次は絶対に負けない」

田山は、現在流通経済大学大学院でバイオメカニズム、スポーツにおける効率のいい動きを研究している。そんな研究もトライアスロンのためだという。日本選手権での10勝は、選手としての目標。将来は、指導者として若手を育成することにも興味はある。

「それでも、きっと僕は選手と一緒に必死に走つてると思う。『オレに負けてるようじゃ、ダメだ!』って言いながら」

多分、40歳、50歳、60歳になっても、そうやって、田山は走りつづけると笑う。

「オレの背中を見て走れ！」

### 田山寛豪 ●たやま ひろかつ

1981年11月12日、茨城県生まれ。3歳で水泳を始め、400m、1500m自由形で活躍。高校3年の時陸上部監督の一言でトライアスロンを始める。流通経済大1年から全日本ジュニアに選出され、「00年ジュニアアジアカップ3位に。'01年第7回日本トライアスロン選手権で初優勝。エリート（シニア）としては、「03年ITUワールドカップ・クイーンズランドに初出場し、以降'04年アテネ五輪13位、「07年ITUワールドカップ・エイラート大会では日本人として初優勝。'08年北京五輪48位、「12年ロンドン五輪20位。同年、第18回日本選手権優勝。167cm、62kg。

# 見て走れ！」

宮崎恵理=文／近藤 篤=写真

Text by Eri Miyazaki / Photo by Atsushi Kondo





Impression

プロカメラマンが選ぶ  
〈サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード〉

# 「溢れ出る喜怒哀楽をTIFFデータで記録する」

泉 悟朗=写真・文 Photo & Text by Goro Izumi

## 実践から生まれた撮影スタイル

トライアスロンはスイムに始まりバイク、そしてランへと続く。その総距離はオリンピック・ディスタンス（スタンダード・ディスタンス）で51.5km、ロング・ディスタンスとなると150kmを超える過酷なスポーツだ。暑さや雨に耐えながら撮影ポジションを求めて移動を続けるフォトグラファーにとってもまた、とても過酷な競技と言える。どのような状況でも撮影に集中し続ける気力、体力を保つ工夫が必要だ。

私が海外の世界選手権へ出かける際の装備は、カメラボディ2台に超広角レンズと中望遠ズームレンズ、それに70-200mmF2.8ズームレンズ+1.4倍テレコンバーター、そして13インチのノートPCだけ。もちろんお供のコンパクトフラッシュカード(CFカード)は、サンディスク エクストリーム プロだ。

私の軽めの装備を見て、異国の大柄なカメラマンが「その短いレンズだけで大丈夫なの」と尋ねてくることがある。「何の問題もないよ」と私は笑顔で返す。その自信は過去の貴重な経験から生まれたものだ。

トライアスロンの撮影を始めた頃、国内の数試合を取材して経験を積んだ私は、意気揚々と世界選手権へ出かけた。トップアスリートがしのぎを削る最高峰の大会。この取材レビューは感動のうちに終わるはずだった。

ランのファイナルラップ。給水地点で自慢の400mm望遠レンズを構え先頭集団を狙う。レリーズした瞬間に確かな手応えを感じた。次にゴールの瞬間を撮影するため、すぐに移動を開始した。イベント用のフェンスをいくつも乗り越え、観客や係員たちをかわしながら大きなレンズを担いでひた走る。息を切ら

せ、やっとの思いでゴールエリアに近づいたとき、私は愕然とした。すでに上位3人の選手がフィニッシュした後だったのだ。顔面から血の気が引くのを感じ、頭の中では「カメラマン失格」の声がこだました。

その出来事以来、私は機材を厳選して持つようになった。

## TIFFでも連写が可能な高速転送

海外ではトライアスロンの競技人口&ファンは驚くほど多く、観客席、沿道も人で溢れ

私が最も大切にするゴールシーン。選手たちは張りつめた緊張から一瞬に解き放たれ、喜怒哀楽が溢れ出す。二度と出会えないチャンスだからこそ、ファインダーから眼を離すことなく選手を追い、シャッターを切り続けた。

2013.5.11 ワールドトライアスロンシリーズ横浜大会  
Nikon D4 AF-S NIKKOR 70-200mm F2.8G ED VR II Ai AF-S  
TELECONVERTER TC-14E II 1/1000 F4 ISO800 ホワイトバランスオート  
サンディスク エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 128GB



サンディスク  
エクストリーム プロ コンパクトフラッシュ カード 128GB

かえる。一部のプレスエリアを除いては、人込みの中での撮影を強いられることが普通だ。また、コースレイアウトによっては移動の距離も長い。

そのような撮影環境の中で機動力を高めるためには、大口径望遠レンズに代わる武器が必要だった。大きくて重い400mmのレンズを70-200mm+テレコンバーターに持ち替えた。だが、私はフリーランスフォトグラファーだ。機動性のみを求めるのではなく、写真集や写真展での大伸ばしにも耐え得る画像を残さなくてはならない。選手が見せる苦悶の表情、ゴール後に溢れる喜びや悔しさ、カラフルなウェア、飛び散る汗、それらのディテールを細部にわたり表現したい。そんな思いから、JPEGではなく、圧縮によるデータ損失が無いTIFFでの記録に切り替えた。TIFFならば現像も不要で、速報性が要求される場合には、現場で編集者に渡すこともできる。

しかしTIFFファイルは、1カットあたりのデータ量が桁違いに大きい。連写のためには、カードの転送速度がより速くなければならな

い。その要求に応えてくれるUDMA7対応のサンディスク エクストリーム プロ CFカードが、私には欠かせない存在となった。

かつては鉛袋に詰めた150本を超えるフィルムと共に取材に向かったが、デジタルの時代となり、カードケースに32GBのCFカード8枚だけを入れて出かけるようになった。そして、128GBのCFカードが登場し、その環境はより変わった。2台のボディに1枚ずつ装填しておけば、ほぼ交換することなく撮影に集中できる。試合中に雨が降り出しても、これまでのようにCFカードの交換に気を遣うこともない。私にとって、可能性を無限に広げてくれる魔法のようなアイテムだ。

1コマ49.1MBのデータでの高速連写。ファインダーから目を離すことなく選手たちを追いかけて、シャッターを切る。高密度のデータは瞬時に書き込まれ、決してチャンスを逃すことはない。

サンディスク エクストリーム プロ CFカード。期待を裏切ることなく忠実に働いてくれる、小さいがとても心強い相棒だ。



泉 悟朗 ●いづみ ごろう

1966年愛知県生まれ。'86年、スポーツ写真家の水谷章人に師事。'88年に波瀬しモータースポーツを中心に海外での取材活動を開始。'92年ロードレース世界選手権グランプリの取材をまとめた写真集「OVER THE DREAM」を出版。'96年リオのカーニバルを5年連続で取材した写真集「サンバの熱風 RIO」を情報センターにより出版。同写真展をキヤノンサロン（東京、名古屋、大阪）にて開催。第21回JPS展 銀賞受賞。2013年、トライアスロン写真集「Beating 鼓動」を出版。

SanDisk®

使っているだけで「さすが」と思われる  
メモリーカードは少ない。

カメラの性能を最大限に引き出す、  
最大95MB/秒<sup>\*1</sup>の超高速データ転送。

究極のSD<sup>TM</sup>カード、サンディスク エクストリーム<sup>®</sup> プロ<sup>™</sup> シリーズ



〔信頼性〕

インテリジェントなデータ管理を可能にする、業界最高水準のエラー訂正コード

〔UHSスピードクラス1〕<sup>\*2</sup>

フルHD動画<sup>\*3</sup>の撮影にも最適な、UHSスピードクラス1に準拠

〔究極のスピード〕

最大95MB/秒の超高速データ転送を実現

〔耐久性〕<sup>\*4</sup>

防水、温度、衝撃、X線などの過酷なテストをクリアし、極限の状況下でも正確な動作を実現

〔長寿命〕

ウェアレベリング技術により、データの保全とカードの寿命を最大化

〔テクノロジー〕

サンディスク独自のパワーコア™ コントローラにより、効率的かつ迅速なデータ処理が可能

〔大容量〕

最大64GBまでの大容量で、高速連写による膨大な画像データや、フルHD動画も余裕で保存

〔絶対の自信〕

絶対の自信に裏付けされた、無期限保証<sup>\*5</sup>付き



サンディスクイメージメイト<sup>®</sup>  
オールインワンUSB3.0リーダー/ライター

超高速性能・大容量

Extreme Series  
エクストリーム シリーズ

サンディスクはプロカメラマンの82.4%<sup>\*</sup>から『安心のブランド』と評価されました。<sup>\*</sup>2010年2月当社調べ。詳細は当社Webにてご確認いただけます。<http://www.sandisk.co.jp/reader>

サンディスクはフラッシュメモリーカード世界<sup>\*</sup>・国内<sup>\*\*</sup>シェアNo.1ブランドです。

サンディスク

検索

\* 2010年Gartner調べ(Gartner Dataquest No. GO0211697 03/25/2011)。\*\* GfK Japan調べ(国内の有力家電量販店販売実績集計/2011年)。<sup>\*1</sup> 最大読み取り/書き込み速度の数字はサンディスク社内テストの結果に基づきます。ホスト機器によって読み取り/書き込みの速度は異なる場合があります。<sup>\*2</sup> Uロゴは、HD動画に録画するためのスピードを有するUHSスピードクラス1を意味します。<sup>\*3</sup> フルHD動画(1920×1080×30fps)、HD動画、3D動画のサポートについてはご使用の機器、ファイルサイズ、解像度、圧縮率、ビットレート、撮影内容、その他の状況に依存します。<sup>\*4</sup> 詳細は当社Webにてご確認いただけます。<http://www.sandisk.co.jp/Corporate/proof/> <sup>\*5</sup> 保証内容に基づきます。ドイツ及び無期限保証を認めていない地域においては30年保証。1.1メガバイト(MB)=100万バイト。1ギガバイト(GB)=10億バイト。記載された容量の一部はフォーマット及びその他の機能に使用されるため、すべての容量をデータ保存のために使用することはできません。2. 機器によっては、SDXCカードやUHSに対応していない場合があります。詳細は機器のメーカーにお問い合わせください。3. SanDisk、SanDiskロゴ、SanDisk Extreme、サンディスク エクストリーム、SanDisk Extreme Pro、サンディスク エクストリームプロ、イメージメイト、及びパワーコアは、米国及びその他の国におけるSanDisk Corporationの商標または登録商標です。SDXCのマーク及びロゴはSD-3C LLCの商標です。その他の商標も特定の目的のために使用されるものであり、各権利者によって商標登録されている可能性があります。



【無】